

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400129		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム乙川		
所在地	愛知県半田市飯森町53-1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成26年5月22日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400129-00&amp;PrefCd=23&amp;Version0">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392400129-00&amp;PrefCd=23&amp;Version0</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年1月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てであり、リビングを南側に集中させ、広々としたリビングがあり、各利用者様に合わせて、生活上での残存機能の維持、向上が図れるようにしている。  
 開所して以来、食事を3食を施設内で作り、提供しており、利用者様に準備の手伝いをお願いして、これまでの培ってこられた力が少しでも発揮できるようにしている。 食事のみならず、食器拭き等の片づけや掃除、洗濯物干しなどの家事についても積極的にお手伝いして頂いている。  
 隣が医療機関であり、その医師による訪問診療が受けられ、常に連携を図り、スムーズな医療が受けられるようにしている。 歯科についても提携歯科医療機関より歯科検診や訪問診療、送迎付きの受診とその方々に合わせた対応をしている。 また、当法人の医療機関によりリハビリを必要な方または、希望のある方に提供している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成24年4月開設から、職員は事業所の業務に慣れてきて日ごろから利用者とコミュニケーションが図れるようになったことで、トイレに誘導時、レクリエーション、外出時など利用者の残存機能を上手に活かす支援ができており、介護技術が向上しているのがうかがえる。また、日常の様子など分かり易く記録に記載されており、記録の書き方が向上している。家族は、運営推進会議の出席や家族会の参加が多く、協力的である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の申し送り時に復唱し、実践につなげている</li> <li>・業務の中で行うことができるように心がけている</li> <li>・理念に基づく個人評価に目標を掲げている</li> <li>・努力している</li> </ul>	事業所の理念を基にして、6か月毎に全職員が個別の目標を掲げており、日々実践できるよう努めている。6か月後に管理者と職員で目標の振り返りを行い、次の目標に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者に任せている</li> <li>・運営推進会議で地域の方と交流をしている</li> <li>・日常的な交流は難しく感じる</li> <li>・レクや行事などで外出をし、交流を持てるようにしている</li> </ul>	利用者と散歩がてら、近隣のコンビニエンスストアや喫茶店に行き、少しずつ地域の人との交流の場を広げている。また、中学生の職場体験の受け入れをしている。	事業所の立地条件で、地域との交流が図りにくい中で、少しずつ近隣の人と顔馴染みになっていることから、今後は、ホームで認知症についての勉強会などを検討されることを望んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者に任せている</li> <li>・地域の人々にはあまり活かされていないようだ</li> <li>・地域貢献までは行かないがご家族への情報提供は行っている</li> </ul>	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に聞き、意見交換を行っている</li> <li>・会議のさい、ご家族の意見を聞き、取り組むようにしている。</li> </ul>	会議は2か月毎に開催している。看取り介護についてや、感染症などについて具体的に話し合いを行っており、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者に任せている。</li> <li>・管理者が窓口となり、連絡を取っている</li> </ul>	市役所の担当者より、利用者に関することで相談や助言を貰っている。職員は、市主催の2か月毎に開催される、地域推進連絡会議に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の施錠をしている</li> <li>・離設の可能性のある利用者様には見守りを行っている</li> <li>・判断が難しい時には管理者に指示を仰いでいる</li> </ul>	玄関は施錠しているが、利用者が外出の要望があれば、職員が付き添いをして外出している。年1回身体拘束の弊害についてやスピーチロックについての研修があり、職員は周知しており、言葉遣いにも気を付けて日々対応している。	職員の異動や新人職員など、変動があるのを踏まえて、時折職員会議などで、身体拘束の弊害やスピーチロックなど事例を挙げて話し合う機会を持つことを望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に身体状況の確認をして、情報の共有をしている</li> <li>・入浴時等にチェックをしている</li> <li>・内出血等あれば、管理者に報告している</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等で学ぶことがあった</li> <li>・研修会にて学ぶ機会があった</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が行っている</li> <li>・理解、納得されるよう何度も話し合っている</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族、利用者様に意見要望をお聞きしている</li> <li>・管理者より職員へ話の内容を報告してもらっている</li> <li>・ご家族や運営推進会議にて意見要望を聞き、取り組んでいる。</li> </ul>	<p>家族の来訪時に要望などを直接聞いており、それを介護計画に反映している。また、面会簿にも要望を記載できるようになっており、そこに記載する人もいる。貰った要望は職員間で話し合い、改善している。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一度のミーティングにて意見交換している</li> <li>・議事録を作成している。</li> </ul>	<p>日々の業務の中や毎月のミーティングで、職員から提案を聞いており、事業所で解決できないことは、上司に伝えて運営に反映している。管理者は職員が働きやすい環境になるよう、日ごろからコミュニケーションを図るよう努めて、要望や提案が言いやすい雰囲気を作っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務や休みの希望は大体聞いていただけている</li> <li>・時々面談がある。</li> <li>・よい職場にするように話し合いをしていきたい</li> <li>・管理者は常に職員の事を考えてくれます。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人研修を行っている。</li> <li>代表者には人員不足改善に取り組んでほしい</li> <li>研修を受ける機会がある</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人研修があるので、参加するようにしたい</li> <li>他事業所の方と出会うとき、多くの人と話し合えるようにした。</li> <li>資格取得に向けて勉強会を開いてほしい</li> </ul>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者さんと常にコミュニケーションを取り、要望に沿えるよう務めている。</li> <li>話されることを聞いて、うなずいたりして共感を持つようにしている。</li> <li>何か重要なことがあれば、全員で共有している</li> <li>意見や要望に耳を傾けるようにしている</li> <li>来所された時には安心していただけるように努めている。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心していただけるように努めている</li> <li>来所されたご家族の方とコミュニケーションを取るようにしている</li> <li>ご家族とあまり話す機会が少なかったもので、そのような機会があれば、信頼しあえる関係作りをしたい</li> <li>来所の折には積極的に声掛けさせていただきます。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話していく中で、必要としていることを知る。</li> <li>自分なりに対応していくようにしている</li> <li>出来る範囲で行っている</li> <li>要望に沿った支援を心がけている</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に追われる事も多々あるが、利用者に向けた支援をさせていただく。</li> <li>・自分でできることはなるべく実践していただき、喜びを共にしている。</li> <li>・隣に座り、昔の思い出を聞いたりしている</li> <li>・家事などに参加していただき、一緒に過ごしていくようにする</li> <li>・利用者様が何をしたいか思っている事を分かるように努めている。</li> <li>・話をたくさん聞くようにしている</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様楽しく過ごせる場所を作るように心がけている。</li> <li>・利用者様とゆっくり話をするようにしている。</li> <li>・来所された方に利用者様の以前のお話を聞いている</li> <li>・来所の際には近況や要望等情報交換を行っている。</li> <li>・来所されやすい雰囲気作りに努めている</li> </ul>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や知人との交流が途切れないよう来所されやすい雰囲気作りに努めている</li> <li>・利用者様の近所の方が顔を見せてくださる</li> <li>・ここにはできていない</li> <li>・ご家族の協力で、個人的に出かける利用者様も見える</li> <li>・外出の機会が少ない</li> </ul>	利用者の知人が来訪して会話を楽しんだり、家族の協力を得て入居前から利用している、美容院や買い物、外食など今までの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく過ごせるようレクリエーション等取り組んでいる</li> <li>・少し関係が分かり、分かる方には常に近くへお連れする。</li> <li>・一緒にテーブルにつき、話をしている。</li> <li>・利用者様同士の関係をよく把握するようにしている</li> <li>・同じ方ばかりではなく、他の方とも交流できるようにしている</li> <li>・その日の様子で席を合わせるようにしている</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・管理者が行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様との会話にて聞き取り、取り組んでいる ・グループホームに来て、自分を気にかけてくれるのがうれしいといわれる方もいる ・安心されている様子 ・理念のように慣れるように心がけている ・利用者様とお話ししながら、コミュニケーションを取り、希望、意向の把握に努めている	職員は日常的な利用者との触れ合いの中で、話を傾聴し、希望や意向の把握に努めている。また、把握が困難な利用者には可能な限り寄り添い、動作や表情から気持ちを汲み取り、意向に沿ったケアに努めるとともに、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者様とのコミュニケーション、ご家族様との会話の中で把握するように心がけている ・管理者が行っている ・他の職員から聞いたりして把握するようにしている ・情報の把握をきちんとする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身の状態変化を見逃さないよう務めている ・ラジオ体操をしたり、洗濯物を畳んだりして身体を少し動かしていただく ・利用者様の様子に変化があれば、管理者に報告し、申し送りしている ・状態の変化がある場合には、記録し、申し送りで、報告している ・本人ができることはできる限り行ってもらえるようにしている ・日々の生活の中で変わった事が無いか注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様とのコミュニケーションをたくさん取るようにしている</li> <li>・変化があった場合は、記録に記入し、報告するようにしている</li> <li>・利用者様に合った生活ができるように支援している</li> </ul>	計画作成担当者は、本人や家族からの意見、要望を聞き取り、職員の意見も反映した介護計画を作成している。定期的なモニタリングや話し合いを行うほか、定期的な見直しを実施している。また、利用者に変化が見られた時には、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録や申し送りにて情報の収集をしている</li> <li>・その日の様子や出来事をカルテに記入するように心掛けている</li> <li>・個人カルテに気づいたことは細かく記録に記入している。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張理美容を取り入れている</li> <li>・体調に合わせた対応をしている</li> <li>・その時々合った支援を心がけている</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者に任せている</li> <li>・把握が難しい</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2週に一度、訪問診療をしている</li> <li>・病院に受診されることもある</li> <li>・訪問看護ステーションとも連携をしている</li> <li>・ご本人やご家族の方が、希望する病院へ受診されていると思う</li> <li>・隣のクリニックとの連携により支援している</li> </ul>	月2回の訪問診療では、体重やバイタルチェック表を見てもらっている。家族同行の専門医への受診時には、介護情報を書面で渡し受診結果は家族から聞き、職員間で情報を共有して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーションとの連携にて情報提供受けられる。</li> <li>・医師への連絡がスムーズ</li> <li>・入浴時、身体の様子などをカルテに記入し、その状況を見ていただいている</li> <li>・管理者が行っている常に連絡が取れるようにしている</li> <li>・訪問看護ステーションの職員が利用者様のチェックをしてくれている</li> <li>・訪問看護ステーションの職員と相談できる</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が行っている</li> <li>・理解、納得されるよう何度も話し合っている</li> <li>・退院後も安心して過ごせるように注意点などを聞く</li> <li>・法人内に入院できるクリニックがある</li> <li>・連携がきちんとできている</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が行っている</li> <li>・事前にご家族からの意向も伺っている</li> <li>・ご本人が過ごしやすい環境づくりと接し方に心がけている</li> <li>・ご家族の意向をカルテに記載し、職員間にも手共有している</li> </ul>	訪問看護師による、終末期対応の職員研修を実施し、家族と医療関係者協働の看護体制や、その為の予備室も整備されている。利用者、家族とは入居時の他、各段階で話し合い、要望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し話や訓練が出来たらいいなと思う</li> <li>・急変時の連絡はマニュアルに沿って行う</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練等も定期的に行っている</li> <li>・消防職員よりお話を聞いている</li> <li>・消火器の訓練があった</li> </ul>	年2回(3・11月)、夜間想定での避難訓練と職員による自主訓練を実施している。消防署指導の「出火場所から離れる」を重点に取り組んでいる。防災用品の他、非常食類も、5日分を目標に備蓄している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修があって接遇の勉強をした</li> <li>・人格を尊重し、敬う気持ちを持ち利用者様と接するように心掛けている</li> <li>・コミュニケーションを取り、その会話の中からお本人様の心地よい話題に心がける。</li> <li>・言葉遣いに気を付けている</li> </ul>	法人内研修にはパート職員も参加して、人生の先輩である利用者の尊厳や人格、プライバシーを損うことのない支援に取り組んでいる。入浴時やトイレ誘導時のさりげない言葉かけや、利用者の家である居室を訪れる際の「ノック」の奨励など、細やかな配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく言葉で表せない気利用者様には気持ちを汲みとるようにしている</li> <li>・実現できるようにご本人様と話し合いながら進めている</li> <li>・日常の動作、声かけへの返答など理解できるように努力している。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様一人ひとりのペースを大切にしている</li> <li>・利用者様の意志を理解する努力をしている</li> <li>・相手の立場になって暮らしやすさを考えている</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えの時には選んでいただけるよう声掛けしている。</li> <li>・パジャマと普段着で一日のメリハリを忘れないようにし、体温調節にも気を付けている</li> <li>・ひげそり、口腔ケア等を毎日している</li> <li>・起床時に身だしなみができるように支援している</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様にお手伝いいただいている。</li> <li>・昼食時、利用者様と一緒に食事をするようにしている。</li> <li>・会話の機会を多く持てるようにしている。</li> </ul>	昼食は本部からの配食利用であるが、季節行事メニューがあり、利用者が楽しみにしている。利用者からの希望メニューには速やかに応えている。また、食事量が低下した利用者には、好物や形態を変えた食べられる物を用意して、口から食べる事を重視し、体力の維持・回復に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量や水分量のチェックをしている</li> <li>・食べやすい工夫している</li> <li>・食べやすい大きさや量を調節し、水分が不足している時は摂取できるもので摂っていただく</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後口腔ケアを行いチェック表に記入している。</li> <li>・義歯の方は毎回はずし、口腔ケアをする。</li> <li>・夜はケースに入れ洗浄している。</li> <li>・なるべく自己にて歯磨きやうがいをしていただく</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に声掛けして解除させていただく</li> <li>・声掛けをして、一緒にトイレへ行き自己にできていただくように心がけている</li> <li>・連れて行くのではなく、お誘いをして意志を聞く</li> <li>・排泄表を確認しながらお誘いしている。</li> <li>・前の排泄より間が空き過ぎないようにお誘いしている。</li> <li>・拒否がある方には工夫してお誘いしている</li> </ul>	排泄チェック表から利用者の排泄リズムを把握し、職員は利用者それぞれのリズムに合わせて声かけすることで、リハビリパンツ利用の軽減に繋がっている。また、失敗した際には、さりげない適切な対応で、利用者の尊厳を損なうことのない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬で調整している方もいる</li> <li>・水分食事に注意している</li> <li>・運動が十分ではない</li> <li>・便秘が続く場合には管理者に相談して対処する</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り入れるように声掛けしている</li> <li>・拒否の強い利用者様にも入りたくなるよう声掛けをしている</li> <li>・できる限り2日に一度は入浴していただいている</li> <li>・楽しんで頂けるように会話をさせていただく</li> </ul>	利用者の安全と今後を見越し、浴室内の手すりを増設している。入浴は毎日でも可能であるが、隔日を目標にし、今年度の目標計画に掲げ、達成されている。入浴希望は午前・午後の利用を聞いたり、言葉に工夫して誘い、入浴拒否を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜が逆転しないように起床、就寝時間に気を付けている</li> <li>・一番良い時間に休んでいただけるように声掛けをしている</li> <li>・日中、折を見て居室にて休んでいただいている</li> <li>・利用者様の好きな時間に就寝していただいている</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表にてミスが無いように心掛けている</li> <li>・飲み終わるまで見届けるようにしている</li> <li>・その時決まった担当者が責任を持って行う</li> <li>・間違いが無いように2人でチェックしている</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる方には家事などをお手伝いしてもらっている</li> <li>・買い物に出かけられるようにしたい</li> <li>・カラオケや季節行事を取り組んでいる</li> <li>・無理のない範囲でお手伝いをお願いしている</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の希望に沿って支援する</li> <li>・できる限り、ご本人様の体調の良い時など、職員と買い物へ行く予定をしている</li> <li>・近くの喫茶店でコーヒーを飲むなどしている</li> <li>・暖かい日には散歩などで外出できるようにしたい</li> </ul>	今期、感染症を考慮して外出を控えて、室内レクリエーションやベランダで花や野菜、みかんなどを育てることで季節を感じ、外気浴と気分転換に取り組んでいる。天候や体調に合わせた散歩や買い物の実施の他、行事計画で季節の花見や外食などの支援も行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設で管理しているが、自己に手管理されている方もいる</li> <li>・管理者が行っている</li> <li>・購入したいものがある時はお話を伺い、管理者が対応している</li> <li>・個別で自己管理をしている方もいる</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも連絡ができるようにご家族の方との連携が取れている</li> <li>・ご本人が心配し過ぎてしまうときには、電話の利用も考える</li> <li>・自己にて携帯電話を使用されている方もいる。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日には照明を調節している。</li> <li>・共有スペースは広く作られている</li> <li>・テレビやソファを置いてゆっくり過ごせるスペースがある</li> <li>・誕生会や餅つき等季節に応じたイベントを行っている</li> <li>・日差しが強い時にはレースのカーテンを引くなどしている</li> <li>・季節感を取り入れ季節の花等も飾っている</li> </ul>	リビングは暖かな日差しが入り、利用者が育てた花が飾られ、利用者は好みの場所で寛ぐ姿が見られた。広さを活かし職員がアイデアを出し合い、体操や各種のイベントを実施し、利用者が家族とともに楽しんでいる。また、掃除はいきとどき、清潔が確保され、居心地の良い環境が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う方同士座っていただいている</li> <li>・ここに座っている場所が決まっており、居場所の確保がされている</li> <li>・くつろげる場所がある</li> <li>・自室で過ごされる方には何度か声掛けをするように心がけている</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家具などの配置は利用者様が使用しやすいようにしている</li> <li>・ご家族写真やお持ちいただいたものを飾っている</li> <li>・利用者様の行動に応じてレイアウトしている</li> <li>・ご自宅で使用されていたものを持ちこんで心地よい空間を作られている</li> </ul>	居室には使い慣れた机や椅子、小物入れの他、テレビや本、新聞、仏像などが持ち込まれ、壁には思い出の多い、自宅や家族の写真が飾られ落ち着いて過ごせる環境作りがされている。また、利用者の身体状況に合わせ、ベッド、家具などの配置がされ、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒等のないように気を配っている</li> <li>・広い空間でゆったり過ごせると思う</li> <li>・車椅子の方でも自走が安心してできると思う</li> <li>・居室には名前入りの写真が飾ってある</li> <li>・トイレの入り口にトイレマークを掲示してる</li> </ul>		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392400129
事業所名	グループホーム乙川

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	近隣を散歩したり喫茶店で寛いだり、コンビニエンスストアへ買い物に行き地域の人と挨拶を交わすなど、少しずつ交流の場が広がっている。また、中学生の職場体験やボランティアの受け入れが増えている。管理者は、地域包括支援センターが開催する、認知症に関する研修に講師として参加している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	年6回開催しており家族の参加が多い。地域との交流についてや薬や転倒などの事故の対応、終末期の介護についてなど、様々な内容が話し合われており、運営に反映している。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市役所の介護保険課へ出向き、事故報告や介護に関する相談や助言を貰っている。職員は、2か月毎に開催される地域推進連絡会議に参加している。また、市主催の研修に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族の来訪時に、要望や意見を直接聞いたり、電話で聞くこともある。家族会が年2回開催されており（3月、11月）ホームの行事などスライドを流して、日常の様子を見てもらっている。家族アンケートからも本人の要望に柔軟に対応してもらえて有り難いとの声もある。	○
重点項目⑤		評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	—	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。